

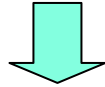
最終処分地確保に向けたこれまでの取り組み

原子力発電環境整備機構（原環機構）

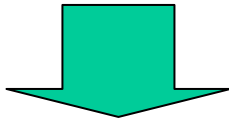
Nuclear Waste Management Organization of Japan (NUMO)

応募獲得に向けた取組み

2002年(H14)12月 公募開始



相手の要請に応じた活動 ~ 待ちの姿勢 ~



理解活動の強化 ~ 地域の自主性を尊重しつつ、より一步踏み込んだ活動へ ~

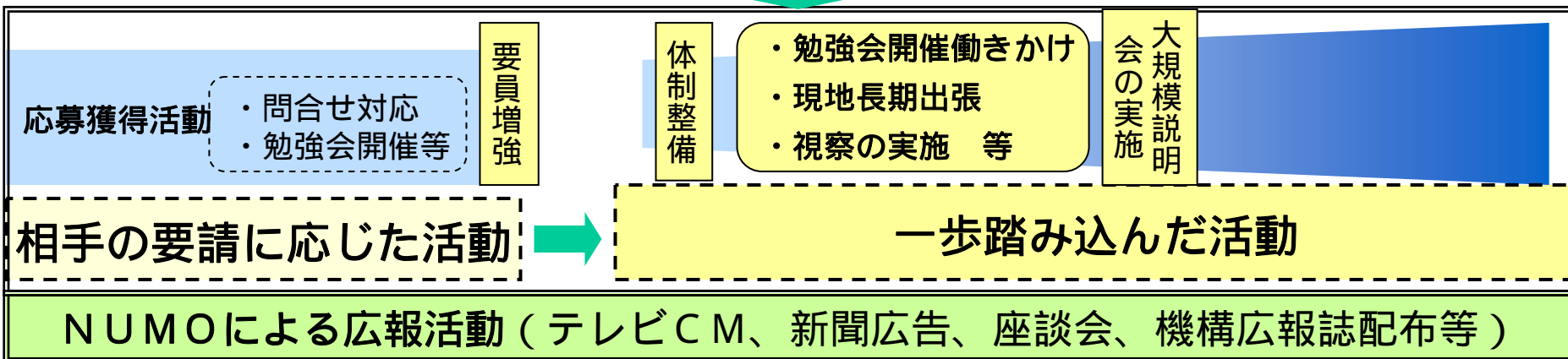
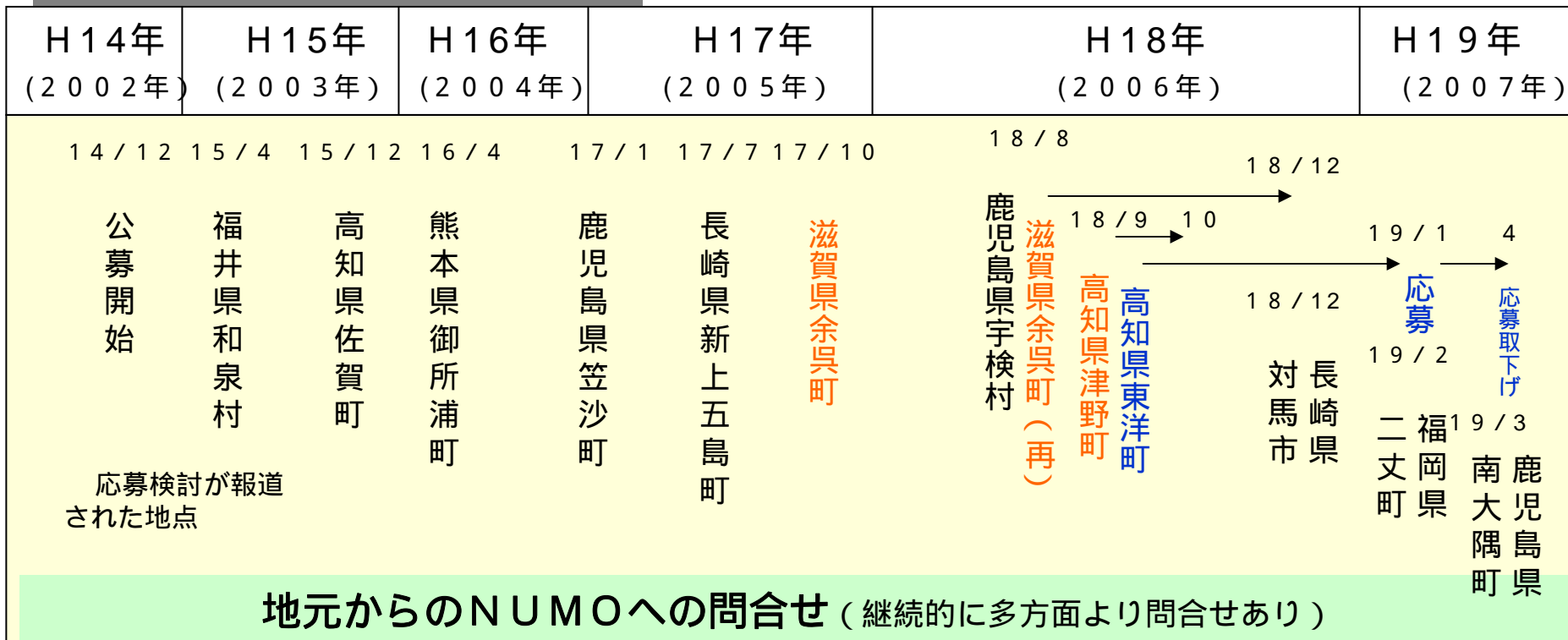
関心を有する地域での積極的・能動的な理解活動

- ・勉強会開催働きかけ、議員全員協議会での事業説明、原子力関連施設視察の実施など
- ・地域各層の方々との信頼関係の構築
- ・事業の必要性・安全性へのわかりやすく丁寧な説明
- ・地域共生モデルプランを活用したより具体的な地域メリットの提案

理解活動強化のための体制整備

- ・地域対応要員の増員
- ・方面別班編成による責任の明確化

応募検討状況



NUMOの広報活動

2005年度(H17)からNUMOの認知度の更なる向上
および応募獲得をめざした広報活動を展開

キャッチコピー：知ってほしい今、地層処分

キャラクター：

鈴木 杏さん(女優)



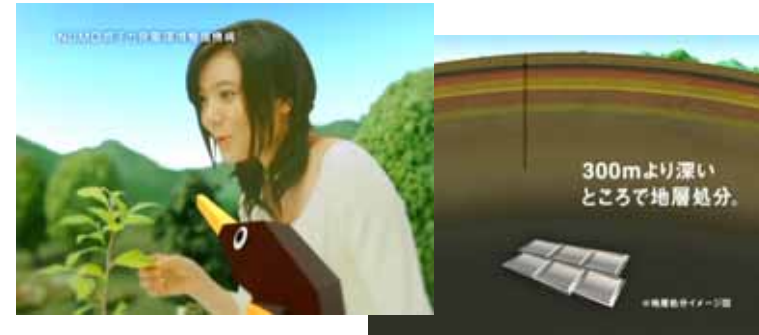
モグールくん



NUMOの広報活動

広告媒体を活用した広報活動

テレビ
（スポット
番組提供）



新聞
（5段カラー）



雑誌
（2頁カラー）



NUMOの広報活動

広聴・広報活動（双方向の対話活動）

フォーラム

地方新聞社との共催
により計31回開催
(2001～2002年度)



座談会

地方新聞社との共催
により計50回開催
(2003～2006年度)



滋賀県余呉町の応募検討

滋賀県 余呉町

- ・人口 3,931人
- ・面積 167.62km²
- ・財政力指数 0.18
- ・歳入総額 約44億円

(数字は、平成16年度[ただし、人口は平成17年度])

主な経緯

- ・H17.10 町長の応募検討が報道、知事の反対もあり一旦は断念
- ・H18. 8.30 町長は、議会および住民の理解を前提に応募したいと表明
 - ・県知事は、近畿の水源県においてふさわしくないと否定的見解
 - ・周辺自治体が反対意見書を可決(1自治体)

国・NUMO・町は地区単位説明会や大規模説明会を実施(6回)

- ・H18.12. 5 住民団体が「応募断念を求める請願」を議会に提出
- ・H18.12. 6 町長は、町民の理解が得られなかったとして、応募断念を表明して引退

高知県津野町の応募検討

高知県 津野町

- ・人口 7,264人
- ・面積 198.22km²
- ・財政力指数 0.15
- ・歳入総額 約62億円

(数字は全て平成16年度)

主な経緯

- ・H18. 9. 4 住民が「応募を求める陳情書」を議会に提出、同時に反対陳情も提出
 - ・町議会はいずれの陳情も「継続審査」に
 - ・県知事は、札びらをばらまく原子力政策はやめるべきだと批判
 - ・周辺自治体が反対決議・意見書を可決(8自治体)
 - ・反対グループは反原子力の方による講演会を実施

国・NUMO・町は地区単位説明会や大規模説明会を実施(17回)

- ・H18.10.27 住民団体は「応募しないよう求める要請書」を町長に提出
- ・H18.10.30 **議会は応募陳情、反対陳情ともに不採択とし、町長は「応募はしない」と終息宣言**

高知県東洋町を巡る動き

高知県東洋町

- ・人口 3,578人
- ・面積 74.09 km²
- ・財政力指数 0.14
- ・歳入総額 約24億円
(数字は全て平成16年度)

主な経緯

- H18.8 ~ 勉強会・説明会を実施
- H19.1.25 東洋町が全国初の応募
- ” 3.28 応募に伴う事業計画変更認可（19年度から文献調査開始可能）
- ” 4. 5 民意を問うために町長が辞職し、出直し選挙への出馬を表明
- ” 4.22 出直し町長選挙において、反対立場候補が当選（1,821票：761票）
- ” 4.23 東洋町が応募取下げ
- ” 4.26 応募取下げに伴う事業計画変更認可（文献調査取り止め）

高知県東洋町を巡る動き

東洋町

住民：反対署名と町議会への応募反対請願（H19.1.15）
「放射性廃棄物持込み禁止条例」の直接請求（H19.3.2）
「町長リコールの会」を立上げ（H19.3.15）
リコール署名活動開始前に町長辞職（H19.4.5）
推進団体「東洋町の明日を考える会」発足（H19.2.19）

議会：「放射性廃棄物持込み禁止条例」（H19.3.22）
後日、町長の再議により否決（H19.3.27）
2回にわたる町長の辞職勧告決議（H19.2.9、3.13）
（いずれも5対4で可決）

町長：「応募＝誘致」ではなく、文献調査期間も勉強期間と位置づけ、文献調査終了後に住民投票を行い、概要調査地区選定に対する民意を問うこと等を主張

県

- ・高知県知事は、札びらをばらまくような原子力政策はやめるべきと批判し、住民の理解や同意は得られていないと応募に強硬反対
- ・徳島県知事は、隣接県域の知事や住民の意見を聞くべきとして反対
- ・両県議会ともに、反対決議等を可決

周辺市町村

- ・高知県の17市町村の議会において、反対決議等を可決
- ・徳島県の4市町の議会において、反対決議等を可決

東洋町における理解促進活動

	時 期	内 容
説明会等	応 募 前 (H18.8 ~ H19.1)	<ul style="list-style-type: none"> ・町議会議員、町職員を対象とした説明会（４回） ・商工会など団体を対象とした大規模説明会（２回） ・住民を対象とした地区単位等での大規模説明会
	応 募 後 (H19.2 ~ H19.4)	<ul style="list-style-type: none"> ・町議会 特別委員会での説明（２回）（３回） ・推進団体の呼びかけによる住民への説明（３回） ・反対派主催の討論会での説明（１回） ・国、NUMO等の主催による大規模説明会（２回）
チラシの配布	H19. 3 ~ 4	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の疑問や不安に対する答えを取りまとめたチラシなどを全戸配布（２回）
新聞広告	通 年	<ul style="list-style-type: none"> ・地方紙にカラー広告を掲載
テレビCM	通 年	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県内でスポットCM（15秒）・番組提供CM（30秒）を放映

これまでの取り組みを振り返って

地点で見られた現象

原子力施設に対する住民の拒否反応

- ・活発な抗議活動、反対請願、リコール運動など
- ・原子力に縁が少なく拒否感が強い
- ・不安や恐怖感が先行、風評被害への心配
- ・「わが町にはいない」との住民感情の噴出(NIMBY)

女性層を中心とする根強い不安・不信

- ・健康や環境の問題に関心の高い女性層が反対活動に積極的参加

反対勢力の迅速な活動とその広がり

- ・全国的なネットワークの展開
- ・講演、チラシ、上映、ブログ、投書などによる不安や動揺の広がり

県知事の強硬な反対・周辺自治体の反対の広がり

- ・迅速かつ広範な反対意思の表明が首長・議会判断にも影響

地方押し付けへの批判

- ・交付金制度に対する反発
- ・地域振興に関する具体的イメージを抱くに至らない

これまでの取り組みを振り返って

応募に賛同
できなかった
住民の気持ちは

知らない、分からない

原子力は分からない
HLWは知らない

聞きたくない、考えたくない

怖いもの、危険なものはダメ
新しいこと、難しいことはイヤ
対立を招くようなことは…

聞いていない

自分達の知らないところで
話が進んでいたのでは

信用できない

相手(NUMO、国)が…
推進・反対、どちらが正しいの

納得できない

政策・制度が押し付け
住民意思無視の進め方
なぜ自分のところなのか…

これまでの取り組みを振り返って

地元合意形成が進まない要因・背景

原子力全般に関する知識不足

- ・最終処分事業だけでなく原子力の基本的知識が希薄なため住民理解獲得に苦慮

最終処分事業の内容や制度に関する理解不足

- ・「一度応募したら後戻り出来ない」など、不安や不信を払拭しきれず

原子力政策に対する国と地元の認識のギャップ

- ・国策としての原子力政策を地域レベルに浸透させられない

地域での理解の広がりや深まりが不十分

- ・地域住民や関係各界への理解拡大が徹底できなかった

疑問や不正確な情報流布へのタイムリー・的確な対応が不十分

県、周辺自治体との信頼関係構築が未熟

- ・十分な情報連絡、説明の機会を設けられず